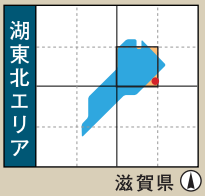
名勝
国指定

玄宮楽々園（げんきゅうらくらくえん）

彦根市金亀町　昭和26年6月9日指定



「玄宮楽々園」は、彦根藩主の私的な屋敷（下屋敷）の庭として造られた、趣の異なる「玄宮園」「楽々園」の二つの庭園を合わせた名称です。４代藩主井伊直興が延宝5年（1677）から2年をかけ整備しました。県内に唯一残る近世大名の庭園で、現存する天守を借景として望むことのできる全国でも唯一の大名庭園です。

当時のできごと	
1601年	伊井直政 初代彦根藩主となる
1622年	彦根城が完成する
1678年	江戸大地震、諸国で台風大雨の被害甚大

玄宮園

玄宮園は魚躍沼（ぎょやくしょう）と呼ばれる広大な池を中心とした庭で、東部から北部にかけて築山を築き園路を巡らします。池には、元島、新島などの四つの中島を浮かべ、汀には複雑な入江を設け、入江と島には、趣の異なる多くの橋を架けて園路を結び、池に乗り出すように建てられた「八景亭」といわれる建物が庭の主景となっています。

唐の玄宗皇帝の離宮にちなんで、造られたことから玄宮園の名があります。また、瀟湘八景・近江八景を模して作庭されたともいわれ、「八景亭」の名はここからとられたものです。魚躍沼と、八景亭の背景に建つ天守は、近世大名の文化を体感させてくれる壮観な眺めです。


玄宮園


玄宮園　岩島


玄宮園　八景亭と天守を望む

楽々園

楽々園は、藩主の日常の住まいである槻（けやき）御殿にある書院庭園です。楽々園の庭は現在では枯山水となっていますが、江戸時代に描かれた絵図を見ると、城下から水がひかれ、滝に水を落とした様子が描かれており、もとは池庭だったようです。

大書院の前に大きな築山を築き、奇岩・巨石を組んで滝と流れを構成し、自然石の橋を架けます。石組の前面には砂利を敷き詰め大河を表し、空想の河は大海へと繋がります。庭の手前には小さな木を、奥には高い木を植え庭に奥行きを与えています。石組の構成は海上遙かにあるという、神仙の住む蓬莱山を表したものとも言われています。



楽々園　大海から大書院を望む



楽々園石組

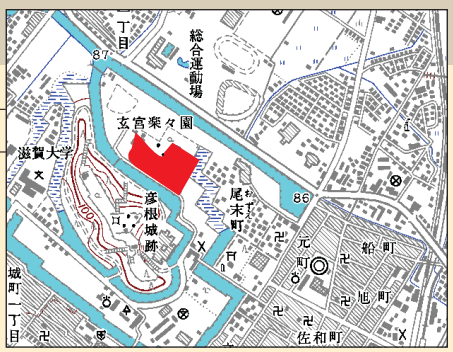
関連する文化財

特別史跡彦根城跡（彦根市）	学習シートNo.001
名勝旧彦根藩松原下屋敷（お浜御殿）庭園（彦根市）	学習シートNo.079
京極氏館庭園遺跡（伊吹町）	学習シートNo.033
兼六園（石川県金沢市）	加賀前田家の大名庭園。特別名勝
栗林公園（香川県高松市）	讃岐藩の大名庭園。特別名勝

もっと深く知りたい

彦根城博物館　☎0749-22-6100　彦根市金亀町1-1

彦根市教育委員会　☎0749-24-7971　彦根市尾末町1-38



玄宮楽々園へのアクセス

ＪＲ琵琶湖線　彦根駅下車
名神高速道路　彦根インター

【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔日本庭園史体系〕社会思想社

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月